



一般質問通告書

令和 8 年第 3 回定例会において下記の事項について一般質問を行いたいのので会議規則第 62 条第 2 項の規定により通告します。

令和 8 年 8 月 24 日

議員 川瀬 厚美



海津市議会議長様

受領番号	第 8 号	受領日時	令和8年 8月24日 11:20
要 旨	南濃みかんの将来を考える		
質問相手	市長		
要 旨	旧東江小学校を広域自転車愛好者のハブ的施設に		
質問相手	市長		
質 問 内 容			
① 南濃みかんの歴史は明治5年(1872年)石津村の伊藤東太夫氏が紀州を視察、当町と気候がよく似ていることから7年後の明治12年に数百本のみかんの苗木を太田地区へ移植した。その成果は大きく明治末期には山すそが次々に開発され石津村のみかん栽培面積は100haに達した。その後さらに進み150haを超えた。経済効果は目を見張るものがあり今もミカン御殿と呼ばれる家々が立ち並ぶ。がしかし、今や子息は家々を離れ故郷も離れサラリーマンとなり現在の耕作者は高齢化が進み空き農地が目立つ。近年、南濃みかんは品種改良が進み好評を博する。新聞やテレビでの報道も度々されその効果はてきめんで、時期になると南濃道の駅やファーマーズは開店と同時に県内はもとより近隣他県のお客様がなだれ込む。大いに喜ぶべき現状であるが半面、生産者は減少傾向にあり需要と供給のバランスが反比例に思える。県内唯一のみかんの産地、海津市南濃みかんの生産は衰退の一途に思えます。このままではある面、市の力の減少となる。今危機感を持ち市として歯止めをかけプラスに転じる方策が必要と考えますが何かビジョンがあればお示し下さい。又県の政策オリンピックに応募し採用され60万円の補助金がつき本市に予算計上されているが、補助金を活用するためにどのような政策が展開されているのかお尋ねをいたします。又現状を把握するためには全ミカン農家にアンケート調査が必要かと思ひます。調査とは全体の面積、その内耕作している面積、していない面積、今後も耕作可能か否か。又、貸借や売買の対象としたいのか等全体を把握した上で行動した方が良くかと思ひますが既に調査は済まされたのか考え中なのかお尋ねをいたします お隣の三重県では県下で生産されるお茶の葉はすべて伊勢茶として「伊勢茶に親しむ暮らし推進条例」を令和8年4月1日から施行した。条例の目的は「伊勢茶の普及及び伊勢茶に親しむ機会の確保」です。海津市南濃みかんも市として条例を作りPRするならば海津市の大いなる宣伝となり生産者の大きな励みになると思ひますがいかがでしょうか。			
② 今や日本国内に於いて25歳以上の一般的なサイクリング、スポーツバイク愛好者の人口は推計で780万人程とされます。東海3県での自転車愛好者(サイクリング人口)は約73万人と言われる。確かにご夫婦と思ひえるサイクリング者、女性も含めた自転車愛好者のグループも良く見かけます。 海津市広域サイクリングハブ計画とは 市民の方の熱い思いもあり提案をいたします。本計画とは単に駐			

輪場や休憩所を作るものでなく東海圏の日常的なサイクリストと全国からの観光客が交差する「目的地」を作るのです。誰でも絶景を楽しめるように E-bike(E. バイクとはスポーツ自転車の車体設計や高い走行性能に電動アシストユニットを組み合わせたスポーツタイプの自転車)のレンタルを完備し、名古屋デザイナーアカデミーと連携を図り産学官連携を行う。食は最も大切な要素、昼はカフェ、夜はラウンジとして稼働させ客単価の増を図る。海津市は岐阜県であり愛知、三重の県境に位置する。足元には約 73 万人の巨大市場が存在する。73 万人の毎週末のベースキャンプとしてリピーターを確保しつつ、全国のツーリストが目指す目的地にすることも可能です。他のスポーツ用品は軒並み減少傾向にある中サイクリング市場は非常に高い成長率を維持しているのです。

ターゲット層の中心となるのは 40 代から 60 代の中高年層で彼らは年間平均 37 回、ほぼ毎週末活動しているようにみえます、機材だけでなく、行く先々の美味しい食事や上質な体験に喜んでお金を使うそうです。この優良な顧客層を是非海津市に取り込みませんか。

成功事例として全国のトップ事例を 2 ヶ所紹介します。まず広島県尾道市では、古い海運倉庫を改装し自転車ごと宿泊できるだけでなく、上質なカフェやバーを併設し大きな成果を上げているそうです。成功要因は、海運倉庫を「洗練された空間にデザインできた」ことにあると言えましょう。2 例目には茨木県の「プレイアウト土浦」当地は駅ビルという既存のインフラを丸ごとサイクリングリゾートに改修し、自前で自転車を持たない観光客に E-bike をレンタルし周辺の市街地や霞ヶ浦へ送り出しているそうです。

本市の候補地としては旧東江小学校は教室もあり利用価値も高い。又お千代保稲荷に近い旧平田庁舎付近、参拝をし、食を楽しみコンテナホテルもある。又だんだん公園付近、深い緑に心を癒し、濃尾平野を一望に眺め至福のひとつが楽しめる。更には木曽三川公園付近、タワーに上り三大河川を眼下に眺め東海地区の生い立ちが学べる。

防災拠点としての大義名分もある。東日本大震災の際、ガソリンの供給が停止し車が全く使い物にならない事態となったが、渋滞やガレキに関係なく最も頼りになったのが自転車でした。平時は観光ハブ、有事には防災・救援ハブとなる。浜松市で行われた社会実験でも実証されているそうです。

平時には外貨を稼ぎ、万が一の災害時には施設と E-bike、そして集まったサイクリストたちの原動力を活かし市民の命と生活を守る「広域救援のハブ」へと瞬時に切り替わります。

海津市広域ハブ施設建設に、本市は立地条件はじめ、必要な条件が数多く揃っていると確信します、近隣県では耳にしません。是非ご検討のほどよろしくお願い申し上げます。